

## 運搬給与コストを半減する 稲発酵粗飼料の放牧地給与技術

飼料イネの生産利用の普及には、運搬利用に関わる負担の軽減が必要です。他方、近年普及している牧草地放牧は、放牧期間が限定されるため飼養規模拡大には限界があります。そこで、イネ発酵粗飼料（WCS）の冬季放牧地給与技術を開発し、その効果を明らかにしました。

### ☆ 技術の概要

1. イネ WCS の放牧地給与方法は以下のとおり。①圃場に電気牧柵を設置し、繁殖牛を放牧する。牛群頭数はイネ WCS1 ロールを2～3 日以内に食べきれぬ頭数以上とする。②排水不良で泥濘化が予想される圃場のイネ WCS は、排水の良い圃場に移動して放牧する。③給与の際、電気牧柵等を利用し牛の採食行動を制限し、牛同士の争いやイネ WCS へのふん尿排せつを避ける。コンバイン型収穫機（以下C型）により調製されたロールの場合は放射状に分割して給与する。フレール型収穫機（以下F型）の場合は帯状に転動解体して給与する（図）。④イネ WCS に不足する蛋白成分を補うため、圃場にイタリアン等の牧草を栽培して放牧採食させるか、大豆粕等の蛋白質含量の高い補助飼料を 100g/頭・日程度給与する。⑤イネ WCS の開封個数・開封間隔は、飼料供給量の目安をC型 1 ロール 12 頭・日、F型 1 ロール 9 頭・日分として、残飼、牧草の生育状態、牛群頭数から判断する。
2. 電気牧柵等を使いイネ WCS への採食行動を制限することにより、採食行動を制限しない場合と比べて、残飼は 30%から約 10%に減少します（表）。
3. 収穫圃場でイネ WCS を給与した場合の経費は、牛舎給与（約 35 万円/100 ロール）に比べ 50%減少します。圃場・牛舎間の距離が 5 kmの場合、経費は 47%削減されます。

表 イネ WCS 放牧利用による残飼

	残飼割合
電気牧柵による採食行動制限を行わない	30.2
制限を行う（C型：放射状分割）	13.5
制限を行う（F型：帯状分割）	7.3

### ☆ 活用面での留意点

1. 稲発酵粗飼料の省力的利用、周年放牧の開発、及び畜産経営の発展に活用できる。
2. 関東など冬季降水量が少ない排水性の良い土壌条件下で適応可能である。
3. 詳細は中央農研・関東飼料イネ研究チーム（電話 029-838-8856）にお問い合わせください。（所属 中央農業総合研究センター  
氏名 寺島一男）

図 F型機で収穫したロールを帯状分割で給与している様子

